

# 第1学年 外国語活動学習指導案

に組 男子18名 女子17名 計35名  
指導者 HRT 阿久根 崇  
ALT Christopher Sneller

## 1 単元 くだもの、だいすき～オリジナル・フルーツカードを集めよう～

### 2 単元について

#### (1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、「ハローイングリッシュ」の単元において、身体を動かしながら歌を歌ったりじゃんけん遊びを取り入れた自己紹介ゲームを行ったりすることを通して、あいさつの表現“Good morning. How are you?”や自己紹介の表現“My name is ～. Nice to meet you.”に慣れ親しんできている。また、友達やALT, HRTと英語を用いてあいさつや自己紹介を行う活動を通して、英語で伝え合う楽しさを味わい、もっと英語で話せるようになりたいと願うようになってきている。

そこで、本単元では、物を受け渡す際の相手とのやりとりの仕方に着目し、友達やHRT, ALTと互いに気持ちよくカードを交換するためコミュニケーションの図り方について考える活動を通して、～,please./Here you are./Thank you./等の英語を用いたり、相手が作ったオリジナルのフルーツカードを褒めたりする等、相手の気持ちを考え、工夫してコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことをねらいとしている。また、カードを交換するために必要なbanana/orange/strawberry/lemon/apple/grapes等の子どもたちに身近な果物名に慣れ親しませることをねらいとしている。

なお、ここでの学習は、動物名の英語を用いた遊びを行う「どうぶつ、だいすき」の学習へと発展するものである。

#### (2) 指導の基本的な立場

子どもたちにとって、果物は、家庭での食事や学校給食で食べたり、ゼリーやジュース、お菓子等の果物の加工食品を味わったりと、生活に身近で、親しみをもっている食べ物である。また、apple/orange/grape/peach等の果物名の英語は、「アップル」「オレンジ」「グレープ」「ピーチ」のように外来語になっているものが多く、日常生活の中で耳にする機会が多いため、英語の音声への気付きを促したり、安心感をもって発話したりできるものとする。そのため、果物を話題にして、友達やALT, HRTと英語を用いてやりとりをする活動を設定することは、子どもたちのコミュニケーションへの意欲を高めることに適している。また、外来語と英語の音声の違いを理解し、生活に身近な名詞に慣れ親しませることにも適している。

そこで、本単元の展開にあたっては、果物名の英語に慣れ親しませるために、身体を動かしながらリズムチャンツやゲーム活動に取り組みせることを通して、英語のリズムやイントネーションを体感しながら理解させていくことが大切である。また、カードを交換する際の相手の気持ちを考えたコミュニケーションの図り方を見いださせるために、「礼を言う」「褒める」ことを観点として、コミュニケーションの工夫の仕方に気付かせていくことが大切である。

具体的にはまず、学習内容への興味・関心を喚起するために、HRTとALTによるフルーツクイズに楽しく取り組む活動を設定し、果物が本単元の話題となることに気付かせる。また、HRTとALTが作成したオリジナルのフルーツカードを互いに交換するスキットを提示し、単元で行うコミュニケーション活動を見通させる。

次に、必要な英語に慣れ親しませていくために、粒を表すぶどうの動きや酸っぱいレモンの動き等、果物の特徴を動作化しながら歌やリズムチャンツ、ゲーム活動に取り組みせることで、英語のリズムやイントネーションを体感させたり、外来語との音声の違いに気付かせたりしていく。

さらに、オリジナルのフルーツカードを交換する活動では、「自分も相手もうれしくなるフルーツカード交換」にすることを目的に捉えさせ、日常生活で物のやりとりをする場面を想起させた上で、「礼を言う」「褒める」ことを観点とした学び合いを導入し、工夫してコミュニケーションを図ることができるようにしていく。

これらの学習を通して、目的を達成するために友達と協働して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことができる。また、相手とよりよくコミュニケーションを図るために、知っている語彙や表現を用いて、工夫しながら伝え合うよさを味わうことができるものとする。

このような学習を積み重ねることで、他者を尊重し、コミュニケーションを通して相手と理解し合ったり、円満な関係を築いたりすることができるようになる。

(3) 子どもの実態(対象者：1年に組35名 数値は延べ人数で、結果は主なもののみ表示)

<p>① 積極的にコミュニケーションを図る態度について</p> <p>○ 外国語の学習は好きか。</p> <p>&lt;はい(35)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームをするのが楽しい(21)</li> <li>・英語の歌を歌うのが楽しい(8)</li> <li>・ALTやHRTがおもしろいことをする(3)</li> <li>・その他(3)</li> </ul> <p>&lt;いいえ(0)&gt;</p>	<p>本学級の全ての子どもが、外国語の学習に好意的である。その理由に、ゲーム活動や歌の楽しさを挙げており、英語で伝え合う楽しさを味わっている子どもはまだ少ないものと考えられる。(①)</p> <p>本学級の多くの子どもがAppleやOrange, Strawberry等の果物の英語を発話することができた。一方、Water melonを発話できた子どもは半数に満たなかった。これは、日常生活で外来語として触れる機会の多少が要因であると考えられる。(②-ア)また、物を渡すときに、ほとんどの子どもが“Here you are.”と発話できた。学級でプリント等の受け渡しをする際に、日常的にこの表現を使用しているため、子どもの身に付いてきているものと考えられる。(②-イ)</p> <p>カードを交換している場面の台詞では、半数以上の子どもが「ありがとう」を挙げている。これまでの成長の中で、礼を</p>
<p>② 身に付いた外国語について(複数回答)</p> <p>ア 絵を見て、果物の英語を発話することができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Apple(31)      ・Orange(29)      ・Grapes(22)</li> <li>・Strawberry(20)      ・Cherry(16)      ・Water melon(14)</li> </ul> <p>イ HRTに物を渡す時に“Here you are.”と発話することができるか。</p> <p>&lt;はい(30)&gt;</p> <p>&lt;いいえ(5)&gt;</p>	
<p>③ 学習・生活経験に関する内容について(複数回答)</p> <p>ア 男の子と女の子が、楽しくカードの交換をしています。「はい。どうぞ。」の後に、二人は何と言っていると思いますか。(絵を見せて、教師が読む)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとう(21)      ・ともだちになろう(21)</li> <li>・いいカードだね、じょうずだね(8)</li> <li>・ぼくのもあげる(1)      ・だいじにするね(1)</li> </ul>	

言う習慣が身に付いてきているものと考えられる。また、「ともだちになろう」と答えた子どもも多くいることが分かる。国語科「どうぞ、よろしく」で、名刺カードを交換した際の学習経験によるものと考えられる。さらに、「いいカードだね。」と、相手のカードを褒めることができた子どもは3割程度であった。相手の物を褒める習慣は、まだあまり身に付いていないものと考えられる。(③)

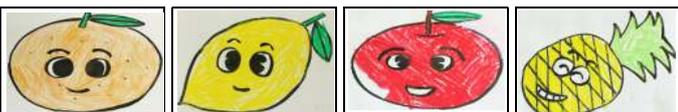
(4) 指導上の留意点

- ア 「活動の内容を知り、果物の英語に慣れ親しもう」では、まず、単元の学習に興味・関心をもたせるために、HRTとALTがカードを交換し、クリアファイルに収集するスキットを提示する。次に、単元のためを設定するために、「カードを交換して、どんな気持ちになるといいかな。」「相手には、どんな気持ちになってほしいかな。」と発問し、「心をこめてカードを作り、気持ちよく交換する」ことを共有する。さらに、果物の英語に慣れ親しませるために、果物の特徴を踏まえて動作化し、リズムチャンツでは動きを付けて楽しませながら発話させるようにする。
- イ 「カードを作ろう」では、子どもがかいた絵をいくつか取り上げて、学級全体でよさを共有する。その際、「このカードのよいところは、どんなところかな。」と発問し、絵の色や形のよさに気付かせた上で、HRTとALTがGood color./ Very good / Great / Nice card.等の褒める言葉を活用して子どもに繰り返し聞かせたり、学級全体で発話させたりする。
- ウ 「友達とカード交換をしよう」では、カードを交換する際のやりとりの仕方に問題意識をもたせるために、HRTとALTが2種類のスキットを提示し、「自分も相手も気持ちがいいのはどちらかな。それは、どうしてかな。」と発問してスキットを比べさせ、コミュニケーションを工夫する観点「礼を言う」「褒める」に気付かせる。

### 3 目 標

- (1) ・ 果物の英語やカードをやりとりする際に用いる英語を、話したり聞いたりすることができる。  
 ・ 果物の英語の音声について、外来語との音声の違いを体験的に理解することができる。
- (2) カードを渡したり受け取ったりする際に、「礼を言う」「褒める」等のコミュニケーションの工夫をしながら、伝え合うことができる。
- (3) 相手の気持ちを考えながら、英語を用いてオリジナルのフルーツカードを交換しようとする。

### 4 指導計画(全4時間)

過程	学習課題と主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
意欲をもつ	<p>①Let's Know What to do.</p> <p>1 本単元の活動の概要を捉える。</p>  <p>【提示するフルーツカードの例】</p>  <p>オリジナルのフルーツカードを交換するんだね。</p> <p>2 単元のめあてを話し合う。</p> <p>ころをこめて かあどをつくり、 ともだちと たのしく こうかんしよう。</p> <p>3 フルーツバスケットを行う。</p>	<p>○ 本単元の学習に興味・関心をもたせるために、ALTとHRTがオリジナルのフルーツカードを互いに交換し、交換して得たカードをクリアファイルに収集するスキットを提示する。</p> <p>○ 学習内容を見通させ、単元のめあてを設定するために、「どんなカードをもらおうとうれしいかな。また、どんなカードをあげると、友達によこんでもらえるかな。」と問い、心を込めてカードを作ることが大切であることに気付かせる。また、「心を込めて作ったフルーツカード、どのように友達と交換したいかな。」と問い、「楽しく」「仲良く」等、気持ちのよいやりとりにつながる考えを引き出す。</p>
つかむ	<p>②Let's Play Games.</p> <p>1 フルーツクイズを行う。</p> <p>2 本時のめあてを話し合う。</p> <p>くだものの えいごをつかって あそぼう。</p> <p>3 マジックワードゲームを行う。</p> <p>4 ホットポテトゲームを行う。</p>	<p>○ 果物の英語に慣れ親しませるために、外来語と英語の音声について、手拍子や動作を付けてリズムやイントネーションを観点に比較させ、違いに気付かせる。また、果物の一部を写真で示したり、果物の形を影で示したりしてフルーツクイズを行い、興味・関心を喚起しながら、ALTの英語を繰り返し聞かせるようにする。</p>
挑戦する・広げる	<p>③Let's Make Fruit Cards.</p> <p>1 本時のめあてを話し合う。</p> <p>ころをこめて くだもののかあどをつくろう。</p> <p>3 オリジナルのフルーツカードを作る。</p> <p>フルーツカードを丁寧に作ることができたよ。早く友達と交換したいな。</p>  <p>④Let's Exchange Fruit Cards.(本時)</p> <p>1 本時のめあてを話し合う。</p> <p>ころをこめてつくったかあどを ともだちと こうかんしよう。</p> <p>2 気持ちのよいカードの交換の仕方を話し合う。</p> <p>気持ちのよいやりとりの例  やりとりに課題がある例</p> <p>・お礼も言わないで、カードを交換していたよ。          ・上手にできているのに、何も言ってあげなかったよ。</p> <p>コミュニケーションを工夫する観点「例を言う」「褒める」</p>	<p>○ カードを交換する際のやりとりの仕方に問題意識をもたせるために、ALTとHRTが2種類のモデルをスキットで提示し、「自分も相手も気持ちのよいやりとり」を観点として比較させ、コミュニケーションを工夫する観点「礼を言う」「褒める」を共有する。</p>
振り返る・生かす	<p>3 カードを交換する。</p> <p>おすすめした場所のことを伝えることができたから、うれしかった。</p> 	<p>○ 単元の学習を通じた達成感を味わわせるために、交換して得たカードはクリアファイルに収納させることで、単元の学びを可視化できるようにする。</p>

## 5 本 時(4/4)

### (1) 目 標

オリジナルのフルーツカードを交換する際に、「礼を言う」「褒める」等のコミュニケーションの工夫をしながら、英語でやりとりをすることができる。

### (2) 本時の展開に当たって

コミュニケーションの図り方を工夫させるために、まず、「自分も相手もうれしくなるカード交換をする」ことを目的にもたせる。そして、学級全体での学び合いにおいて、ALTとHRTによるカード交換のスキットを比較させることを通して、コミュニケーションを工夫する観点である「礼を言う」「褒める」を見いださせる。

### (3) 実 際

過程	主な学習活動	使用英語・ルール	時間	教師の具体的な働きかけ
意欲をもつ	1 Greeting	A: Quiz1.	10	○ 楽しみながら果物名の英語を振り返らせるために、果物の一部を写真で示したり、形を影で示したりする等、ICTを活用してフルーツクイズを出題する。クイズの答えに関わる子どもとのやりとりを通して、ALTの発音を繰り返し聞かせる。 ○ 本時の活動に興味・関心をもたせて、本時のめあてへと焦点化するために、カードのよさについての考えを引き出しながら、子どもが作ったカードを写真で提示する。そして、本時では、互いが心を込めて作ったカードを交換する活動を行うことを確認し、「どんな交換がしたいかな。」と問い、気持ちのよいやりとりにつながる考えを引き出す。
	2 Fruit Quiz	Watch the screen, please. Oh, It's yellow. What's this?		
	3 Watching Pictures	C: It's bananas.		
	4 Meeting Unit Target	H: Yes, that's right. Quiz2. Watch the screen, please. (Pictures will move fast.) Oh, it moved fast. What's this?		
つかむ	5 Practice	apple / orange / melon	10	○ フルーツカードを交換する際の英語での気持ちのよいやりとりの仕方を捉えさせるために、ALTとHRTが「気持ちのよいやりとりの例」「やりとりに課題のある例」の2種類のモデルをスキットで提示し、「自分も相手も気持ちのよいやりとり」を観点として比較させる。 その際、モデルの概要が分かる写真を黒板に提示した上で、「どちらのやりとりが、お互いに気持ちがよいか。それはなぜかな。」と問い、子どもの意見を類型化したり、普段の生活で物をやりとりする場面を想起させたりして、コミュニケーションを工夫する観点「礼を言う」「褒める」を共有する。
	6 Rhythm Chants	/ pineapple / grapes / strawberry / cherries / peach / lemon / rock, scissors, papers go.		
挑戦する・広げる	7 Think How To Make Communication		15	○ 本時の学習の達成感を味わわせるために、子どもがカードの交換をしている写真を数枚提示し、コミュニケーションを工夫する観点に基づいて、やりとりを振り返らせる。
	気持ちのよいやりとりの例	やりとりに課題のある例		
	Card, here you are. Oh, good card.(褒める) Thank you(礼を言う)	Card, here you are. ・・・(笑顔) Bye bye. (手を振る動作)		
振り返る	8 Exchange Fruit Cards		10	
	9 Presentation			
	10 Reflection			
	11 Ending			